**読書ノート(その17)** －**東芝不正会計事件**

2018年2月25日

**参考文献**

(1)今沢真「東芝不正会計 底なしの闇」(毎日新聞、2016年1月)、(2)小笠原啓「東芝 粉飾の原点」(日経BP、2016年7月)、(3)FACTA編集部「東芝 大裏面史」(文藝春秋、2017年5月)、(4)第三者委員会報告書(2015年7月21日)、(5)役員責任調査委員会報告書(2015年11月9日) 、(6)CiNii検索の論文4件

**事件の概要**

* 過去六年分の決算で約1,500億円の架空利益を計上した粉飾決算事件（2015年5月発覚）。歴代3社長他は不正会計を承認し、部下の是正提案を拒否した。2015年12月25日、金融庁は約74億円の課徴金を課した。
* 粉飾の手口： (1)社給部品の「バイセル取引」において下請業者に高価格で販売し過大利益を計上、(2) 工事損失引当金を過少計上、(3) 在庫部品の評価損の過少計上、その他の引当金・費用の過少計上。
* 粉飾に走った背景： (1) リーマンショックで赤字転落から脱出のため、「チャレンジ」という高すぎる利益目標の設定とその実現を迫る歴代3社長の強圧的経営手法、(2)2006年に買収したウェスチングハウスは東日本大震災で一気に業績不振に(3千億円超の減損？)、(3)ﾘｰﾏﾝｼｮｯｸとWH不振のダブルパンチでコベナンツ違反の恐れがあった。

**経緯**

* 2015年2月12日、証券取引等監視委員会により工事損失引当金について検査(金証法26条)がおこなわれた。これは内部告発が契機と思われる。なお、検査があったことはこの時点では公表されず6月25日の株主総会で公表された。
* 2015年5月9日 、事件の第一報・日経新聞が「不適切会計」を報道。その後他紙も後追いで一斉に報道。
* 2015年5月11日(月)、東芝株、ストップ安。(その後、特注銘柄に指定。2017年8月1日には東証二部へ降格)
* 2015年5月13日、東芝からニュースリリース：(1)過去三年の累計約500億円の営業利益を下方修正、(2)第三者委員会を設置して調査する。(その後、過去六年分の決算で約1,500億円の架空利益が判明)
* 2015年5月15日(金)、田中社長は会見で謝罪。
* 2015年6月25日、株主から経営責任を厳しく追及する発言多数あり。東芝から株主総会で2月に証取監査委員会による検査があったことが説明され、株主はあ然とし、隠ぺい体質に非難ゴウゴウ。
* 2015年7月21日、第三者委員会報告書が公表され、委員長の会見あり。
* 2015年8月中に提出すると言っていた有価証券報告書は提出できず。原因は、後にWH問題のためと判明した。
* 2015年9月7日、ようやく有価証券報告書は提出された。税前利益で2,248億円のかさ上げがあったとのこと。
* 2015年9月30日、株主総会開催：(1)決算報告、(2)役員責任調査委員会の設置、(3)その他。
* 2015年11月7日、中間決算発表の社長会見：(1)歴代3社長等に対し3億円の賠償請求訴訟を提起したと発表、(2)質問に答える形で「WHの減損処理はしない」と回答。

※WHの買収は、三菱重工と競合したため買収額は高騰し(6,210億円)、公正価格超過分3,500億円はのれん代として資産計上したが、2011年の東日本大震災で減損処理の必要性がｼﾞｬｰﾅﾘｽﾄ・証券ｱﾅﾘｽﾄから指摘されていた。

* 2015年11月9日、役員責任調査委員会の報告書が公表された。報告書は歴代3社長等に対し10億円の損害を認定したが、東芝は3億円のみ請求し提訴した。役員弁護の記述まであるという東芝寄りの内容。
* 株主訴訟については、2017年10月17日現在で合計32件・総額1,396億円の株主訴訟がなされている（日経HP）。
* 2015年11月12日、日経は、WHは資産価値を1,600億円減損処理したと報道。五日前に社長は「減損処理はしない」と回答していた。真相は、この減損処理はWH単体ベースで資産の減損をしたものであり、東芝連結ベースでは減損の判断基準が異なるためWH単体の減損は反映していない、というもの。 (なぜこんな会計処理が許されるのかと新日本監査法人に対する疑念が強まった。)
* 2015年11月17日、東芝からニュースリリース：WHの減損額は東証の適時開示基準を超えていたので開示違反でした。(新日本が知らなかったわけはなく故意犯の疑惑が強まった→結局、12月22日、1~6ヶ月の業務停止命令)

**原因 (私見)**

* ムラ社会の文化： (1) 隠ぺい体質、(2) 利益至上主義で内向きの意識が強化され、外の世界に対する関心が希薄化した
* 権威主義： 会議で社長に反論できないCP、そのCPに反論できない部課長、その部課長に反論できない担当者
* 不正に対してNoと言えない「同調」と「服従」の心理 →人間は命令されると容易に不正をおこなってしまうもの
* 不可能な目標に「過剰適応」してしまう心理 →不正をしてでも目的達成、人間はがんばり過ぎる傾向あり



中央・田中(神戸商大)は事件発覚当時の社長。発覚後、不動産の妻への生前贈与が発覚。

右・佐々木(早大理工)は前社長、原子力関係一筋。窓ガラスが振動するほどの罵倒で恐れられていた。ボールペンやファイルが投げつけられた、具体的指摘なしに154回の資料修正を指示された等々のパワハラ事件多数あり。

左・西田(早大政経・東大修士)は前々社長、イラン人女性と結婚後、東芝イラン現法入社、その後本社に移った。WH買収は佐々木と二人三脚で成し遂げたが、その後佐々木とのいがみ合いが何度も目撃されており、週刊誌で公然と佐々木を批判。昨年12月死去。